

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第15号）について（送付）
八代地域で3月24日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

発蛾最盛日は3月26日と予測される（平年より19日早い）。
越冬世代（幼虫+蛹）の発生密度は平年並であった。

1 調査結果の概要

- (1) 3月24日現在、越冬世代の蛹化率は同時期の平年より高く、越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年（4月14日）に比べ19日早い3月26日と予測された（表1）。
- (2) 幼虫及び蛹の密度は3.5頭/10㎡（平年3.3頭/10㎡）と平年並であった（表2、図1）。

2 防除対策

- (1) 「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生密度を抑えるため、4月に発生する第1世代幼虫に対する防除を徹底する。
- (2) 防除適期は粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日7日後を目安にする。なお、気温の変動によっては羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。
- (3) 本年は発蛾最盛日が平年よりかなり早いため、防除のタイミングを逃さないよう気を付ける。
- (4) 予測される発蛾最盛日は、ほ場によって差が生じるので、ほ場内の発生状況をよく観察し、防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に随時掲載する。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	調査日	蛹化率 (%)	発蛾最盛予測日 (実測日)
本年	3月24日	83.3	3月26日
前年	3月25日	29.4	4月12日 (13日)
平年	3月26日	30.4	4月14日 (14日)

注) 蛹化率：調査区と調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

予測式：調査日の蛹化率と過去10年間の「調査日の蛹化率係数（傾き）」と「調査日から発蛾最盛日までの日数係数（切片）」を用いた予測式

発蛾最盛日 = 調査日の蛹化率 (%) × (-0.3028) + (27.31) + 調査日

実測日：乾式予察灯（地点：八代市千丁、鏡）で4月に誘殺のピークが見られた日

表2 イグサシンムシガ越冬調査結果（調査日：令和5年3月24日）

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	氷川町	中島	100	0	0	0	0	0.0	82.6
2		鹿野	100	2	0	0	0	0.0	81.0
3		網道	100	4	1	1	2	5.6	53.8
4		両出	100	11	1	2	3	8.4	115.2
5		鏡村	100	4	0	0	0	0.0	88.2
6		北新地	100	9	0	1	1	2.8	97.8
7		古閑出	100	0	0	0	0	0.0	54.2
8	八代市	太牟田	100	2	0	0	0	0.0	65.2
9		吉王丸	100	0	0	0	0	0.0	60.4
10		松高	100	26	1	8	9	25.2	32.2
11		金剛	100	0	0	0	0	0.0	84.4
12		日奈久	100	5	0	0	0	0.0	54.0
計			1,200	63	3	12	15	3.5	72.4
平年			1,790	51	15	7	22	3.3	

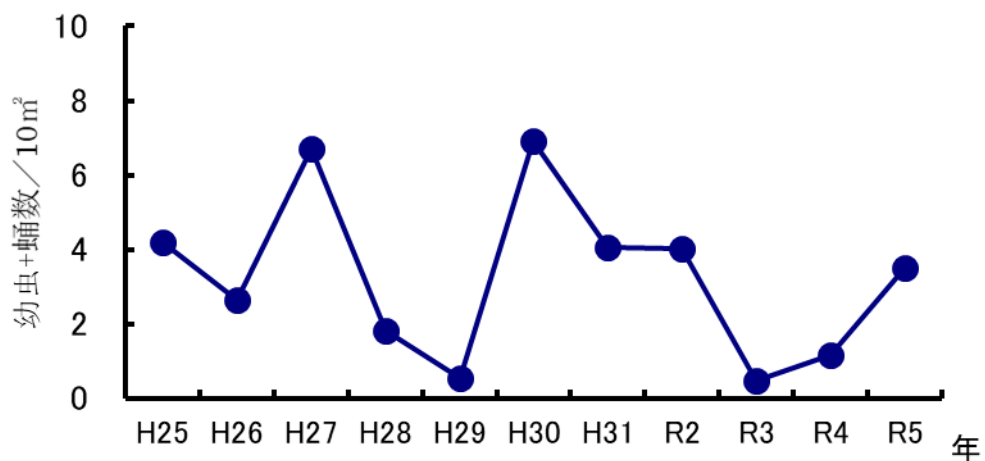


図1 イグサシンムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移（八代地域）

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所
 （農業研究センター生産環境研究所内）
 担当：清永
 TEL: 096-248-6490